

2020年度放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2021年3月31日 5名で会議

事業所名 放課後クラブ ルンバルンバ原町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係	5	0	活動内容ごとに取り組む場所を限定して、メリハリをもって過ごせるようにしている。	感染症対策を考慮しながら、子どもたちへの支援の質が落ちないように取り組みを行っていく必要がある。
	2	職員の配置数は適切である	5	0	加配を取得しており職員配置の基準は満たしている。	少ない人数でも子どもたちへの支援の質が落ちないように、研修を積極的に行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	子どもたちが理解しやすいように構造化している。	多様な障害特性を持つ子供たちでも受け入れられるような設備を整えていく必要がある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	PDCAサイクルを支援記録に取り入れている。	取り組み内容をより深め、どの職員が対応しても安定した支援が共有できるように引き続き改善を行っていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	評価表の結果を元に職員間で話し合い、を行っている。	事業所個別にアンケートを作るなど、より細やかな聞き取りを行い、さらなる業務改善に向けて取り組みを行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	ホームページにて常に公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5	現在行われていない。	会社として取り組むべき課題として認識し行動する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	2	年間計画の中に職員研修を盛り込み定期的に行っている。	研修の機会を増やすとともに職員の意向も取り入れ、よりレベルの高い研修内容を提供する必要がある。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	保護者と定期的な面談を行いニーズと提供支援のすり合わせを行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	標準化されたアセスメントツールを使用している。	基本的なアセスメントは行えているが、発達の変化に合わせてより細やかなアセスメントを記録し共有していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	毎日の全体ミーティングにて話し合いながら立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	毎日の全体ミーティングにて話し合いながら取り組んでいる。	今後も子どもたちの特性を考えながら成長に必要な最善の支援を職員間で検討し実施していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	子どもたちの「出来た」が実感できる課題設定を行っている。	課題の変化を職員間でより共有できるようにミーティングを行っていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	個別支援計画にバランスよく取り入れている。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	毎日打ち合わせを行っている。		

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	翌日の打ち合わせの中で行っている。	現状の勤務形態では翌日の振り返りが最善である。今後も確実に振り返りを行っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	確実に毎日、記録している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	半年に一回以上行い内容は職員間で共有している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	5	0	複数の内容を組み合わせさせた支援内容となっている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	子どもを正しく評価できる職員が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	家庭や学校だけでなく職員間でも連携をとり、適切に行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	0	事例がない。	今後、医療的ケアが必要な子どもの利用希望があった際に、受け入れられるように体制を整えておく必要がある。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	受け入れ前に訪問を行い情報共有に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	0	事例がない。	利用者が、他の事業所へ移行する場合に、スムーズに情報提供できるように準備しておく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	5	特になし。	今後必要な研修がある場合は積極的に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	0	他の事業所で行われている行事に積極的に参加している。	感染症対策を考慮しながら、より多くの機会を持てるように計画をたてていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	5		積極的に参加していくよう努力していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	連絡帳だけでなく電話などで状況を伝えている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	0	自発官が中心となり行っている。	すべての職員が取り組めるように、情報の共有や研修を行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	契約時に丁寧に説明を行っている。不明点については随時回答している。	

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	細かく面談を行い些細なことにも即時お答えしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5	前年までは行われていた。	感染症対策に配慮しながら、取り組める内容を検討し実施していく必要がある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	ガイドラインに基づいた相談体制が整っている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	月に一回の通信や毎日のブログにて発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	5	0	保護者の同意に基づき管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	利用中の様子で気になる些細なことでも保護者へ連絡している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5		地域住民との交流が図れるようなプログラムを作成していく必要がある。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0		今後も引き続き、訓練の結果を元に内容を改善していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	毎月、防災週間を制定し必要な訓練を行っている。	今後も引き続き、訓練の結果を元に内容を改善していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	年間研修のスケジュールに組み込まれている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	契約時に丁寧に説明を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	保護者からの情報を元に対応している。	アレルギーが確認されている児童については細かい変化を定期的に確認していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	事例を作成し共有している。	事例検討会を定期的に行い、事故が起こらないように取り組みを行っていく。